

# 渋沢栄一はなぜ多くの会社をつくらうとしたのだろうか？



# この建物はなに？

第一国立銀行

[https://jpsearch.go.jp/item/arc\\_nishikie-0421\\_C028](https://jpsearch.go.jp/item/arc_nishikie-0421_C028)

→ 変遷図「第一国立銀行」

<https://eiichi.shibusawa.or.jp/namechangecharts/histories/view/060>

→ 沿革 渋沢栄一ゆかりの地「第一国立銀行」

<https://www.shibusawa.or.jp/eiichi/yukarinochi/album/13-J-0001-B0008-ph01.html>



何をする建物？

- ホテル？
- 学校？
- 銀行？

なんていう文字が書かれてる？



「第一国立銀行」と書いてある

へんな形  
(擬洋風建築)

# 渋沢栄一がめざした第一国立銀行の姿を考えよう

デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第4巻(DK040001k)

- ・第一国立銀行定款
- ・銀行創立願書(『第一銀行五十年史』巻一 第二十九 五五頁より)

2つの資料から、どのようなことを読み取ることができるだろうか。

## こんなことに気が付いたかな？

- ・「頭取」という役職がある。
- ・出資している「株主」が議論して経営を決める。
- ・紙幣を発行している。
- ・政府が発行した公債証書と紙幣を交換している。

今の会社の仕組みの基礎を作っている。

本来は政府がすべき仕事を民間で補っている。

→ 渋沢栄一は政府で手が回らないことを民間で補おうとした



## 渋沢の生きた時代の感染症と渋沢の貢献

「渋沢栄一の生きた明治・大正の時代、コレラや結核、ペストやスペイン風邪といった感染症が繰り返し猛威を振るい、人びとを苦しめました。栄一の妻、千代も1882(明治15)年に流行したコレラによって、42歳の若さで急逝しています。今回は、栄一が目に見えない病原体の脅威にどのように臨んでいたのか、その事績が現在にどうつながっているのか、コレラと結核に関する事業を例に紹介いたします。」

(わがまちの渋沢 感染症と栄一～東京都～ <https://www.shibusawa.or.jp/eiichi/wagamachi/856.html> より)

## まとめ

渋沢栄一はなぜ多くの会社をつくろうとしたのだろうか？

- ・単に利益の追求のためだけではないことを理解しよう。
- ・経済面、社会・公衆衛生面での時代ごとの比較を通して、過去の取り組みが現在に繋がっている点を考察しよう。